

コノミタケの発生環境に関する調査

宗 田 典 大

はじめに

コノミタケ (*Ramaria* sp. 写真1) は、9月下旬から10月にかけてコナラ林に発生するホウキタケ科のきのこで、樹木と共生する菌根菌といわれている。コノミタケは成長に伴ないきのこ全体が白色のカリフラワー状から象牙色のサンゴ状に成熟し、大きいものは1株が20cmを越え重さは2~3kgになる。石川県内の分布は奥能登地方が中心であるが、加賀地方でも少量の発生が見られる。県外の分布はコノミタケが能登地域の方言名で、標準和名がないことから分布は明らかでない。

コノミタケは奥能登住民の秋の味覚として珍重され、すき焼き、きのこご飯、きのこ汁など独特の風味と食感を生かした料理が好まれている。流通は、個人間の売買が多く5千~2万円/kgで売買されている。しかし近年、コノミタケ収穫量が減少しているといわれており、奥能登の地域住民からは、コノミタケの収穫増が求められている。そこで、コノミタケ収穫増の施策指針の確立を図る基礎資料を得るために、発生環境調査を行った。



写真1 コノミタケ (輪島市三井)

調査方法

1 コノミタケ発生林の調査

平成15年にコノミタケが観察された輪島市三井地内および、柳田村当目地内でそれぞれ1ヶ所、能都町柏木地内の3ヶ所の林分において10mの方形区を設置し、胸高直径4cm以上の樹木について

毎木調査を行った。また調査地の斜面方位および、コノミタケ発生箇所の斜面位置、腐植層の厚みを調査した。調査地の林齢は所有者からの聞き取りによった。

2 コノミタケ菌糸層の調査

輪島市三井の調査地で、コノミタケ発生箇所では幅30cm深さ40cmの調査坑を掘り、土壌断面の観察および、コノミタケ発生箇所を中心に、斜面の上下および左右方向に30cm間隔で直径5cm深さ約7cmの調査坑を掘り、菌糸層の水平分布を調査した。

結果と考察

1 調査林分の概要

調査林分の概要を表1に示す。コノミタケは主に南向きの斜面の尾根から中腹で発生が観察された。林分の構成樹種は高木層を15~30年生のコナラが優先し、中低木層はソヨゴやマルバマンサクが優占していた。コナラの成立本数は700~4,000本/haでコナラが占める割合は斜面の中腹では高かったが、尾根では半分以下であった。発生箇所の腐植層厚は3~5cmであった。

2 コノミタケ菌糸層の分布

コノミタケ菌糸層の垂直分布を写真2に示す。土壌は腐植が堆積し有機物に富む腐植層と鋳物質層が観察された。腐植層の厚みは約3cm、鋳物質層は、弱乾性赤色土であった。コノミタケの菌糸層は鋳物質層に深さ20cmまで白色の菌糸が一様に分布していたが腐植層では観察されなかった。

菌糸層の水平分布を図1に示す。図の上方向は斜面の上方向を示し、コノミタケ発生箇所を中心に土壌採取箇所の菌糸層の有無を示した。菌糸層の有無から、図の楕円で示される幅約1m、長さ2.5mの範囲に菌糸層が分布しているものと思われた。

まとめ

奥能登地域では、コノミタケの発生が年々減少しているといわれている。発生の減少は、コナラ林が薪炭林として利用されなくなったことで更新

の遅れや腐植の堆積により、コノミタケの生育に適さない林が増えていることが考えられる。

今回の調査においては、コノミタケは30年生までのコナラ林の尾根や中腹で観察され、腐植が厚く堆積した箇所では観察されなかった。また菌糸層が養分の少ないやせた鉱物質層に分布していたことから、コノミタケはコナラ林でも腐植の堆積が少ない箇所を好んで生息するきのこであること

がわかった。このことからコノミタケの発生を促すには、コナラ林の更新を促すことや、落ち葉をかき取り、土壌の富栄養化を抑えることが有効と考えられる。

参考文献

池田良幸：石川のきのこ図鑑 北國新聞社（1996）

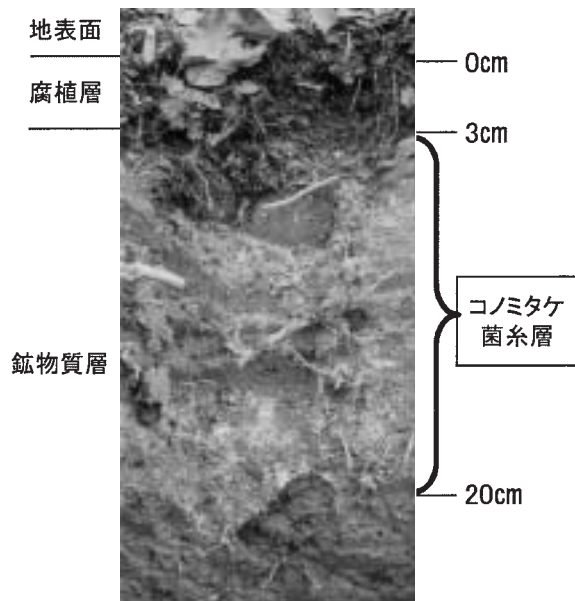


写真2 コノミタケ菌糸層の垂直分布

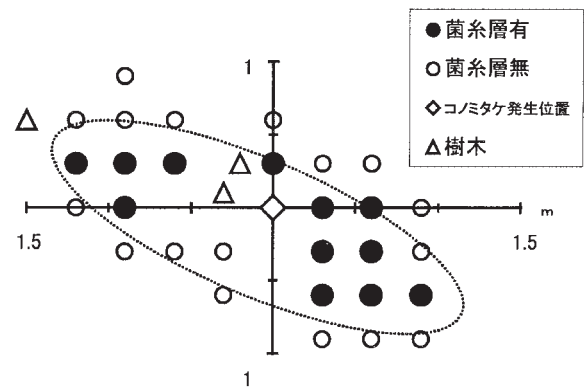


図1 コノミタケ菌糸層の平面分布

表1 コノミタケ発生林の環境

調査林分	輪島市三井	柳田	能都町1	能都町2	能都町3
林分を構成する主な樹種	高木層	コナラ	コナラ	コナラ	コナラ
		アカマツ	ナラガシワ	コシアブラ	アオハダ
	中低木層	ソヨゴ	ソヨゴ	ソヨゴ	ソヨゴ
	マルバマンサク	マルバマンサク	マルバマンサク	マルバマンサク	マルバマンサク
コナラ (本/ha)	2800	3800	2000	1200	700
4 cm以上の立木(本/ha)	3700	4000	5000	3300	4300
全立木のコナラの割合	76%	95%	40%	36%	16%
林齢 (年)	30	15~20	25	25	15
標高 (m)	180	280	220	220	200
斜面方位	南東	南西	南東	南東	北東
斜面における位置	中腹	中腹	尾根	尾根	尾根
落葉・表層土の厚さ(cm)	3.7	3.8	3.3	5.0	3.5